

同 34年11月 近藤昭三氏と結婚。

同 36年3月 東京大学大学院修士課程卒業。

同 41年10月1日 福岡女子大学講師に就任。

同 46年6月4日 病気のため九州大学医学部附属病院
に入院。

同 47年2月28日 福岡女子大学助教授に昇任。

同 47年4月15日 九州大学医学部附属病院第二外科病
棟にて永眠。

業 績

昭和27年 「平泉」(岩波写真文庫69巻) 解説担当(無記
名)。

同 30年 「Comme siに導かれる従属節の Temps と
Modes について」 早良哲夫氏と共同して日本
フランス語学会関東支部会合において発表。の
ち日本フランス語学会・フランス語研究に同氏
と共著で発表。

同 33年 「フランス文学を通して得た私のフランス
観」(仏文、アシエット・ラールス仏文学賞受
賞作品) 仏大使館、日本通信36号。

同 36年 「カルチェ・ラタンにて」(随筆) 仏大使館、
日仏文化技術通信54号、のち国際新教育6巻7
号に転載。

同 37年 「ヨーロッパ旅客気質」(随筆) 交通新聞8月
12日号。

「アナトール・フランスの三つの哲学小説——
神と悪魔の意味——」九州フランス文学会発
表。

同 38年 「アナトール・フランスにおける文学的創
造」日本フランス語・フランス文学会全国大会
において仏語により口頭発表、のちバリのアナ
トール・フランス協会機関紙「赤い百合」93・
94・95号に仏文により発表。

「お正月とひざ小僧」(随筆) 交通新聞 昭和38
年1月1日号。

「外国のしつけに学ぶ(フランス篇)」婦人生
活8月号。

同 39年 「フランスの学校教育」小学館・少年少女世
界の名作文学月報4号。

「去年マリエンバードで」(談話) 朝日新聞5
月25日号。

同 40年 「私のツタンカーメン展」朝日新聞 12月16日
号。

「新中国における労働のモラル」婦人公論12月
号、婦人のひろば。

「 $\sqrt{81}$ 」フェリーニの仮遺言書Ⅱシルベール

・サラシャ」映像芸術2巻10号11・12合併号。

同41年 「朝日新聞と私」朝日新聞3月15日号。

「芸術と方法」ジルベール・サラシャ」映像芸術3巻4号。

同42年 「映画『昼顔』を見て」夕刊フクニチ 11月9日号。

同43年 「アナトール・フランスとその哲学的諸觀念」(仏文)福岡女子大・文芸と思想30号31号。

「クリオとアナトール・フランス」歴史と文学——アナトール・フランスの場合」九州フランス文学会発表、のち同学会・フランス文学論集5号に所収。

同44年 「アナトール・フランスと自動車」朝日新聞44年6月5日号研究ノート欄。

「物より心の感謝を」朝日新聞44年7月24日号ひととき欄。

「アナトール・フランス舞姫タイス」教科書編註 第三書房。

同45年 「アナトール・フランス著ペンギンの島」(全訳および解説)中央公論社・世界の文学23巻。

「ミシェル・メニル著溝口健二」(全訳)三一書房 現代のシネマ第4巻。

「ジルベール・サラシャ著フェデリコ・フェリ

ーニ」(全訳)三一書房 現代のシネマ第7巻。
「『タイス』研究ノート」福岡女子大・文芸と思想34号。

「アナトール・フランスと日本」九州比較文学会発表、のち比較文学所収。

「ポール・ルイ・クーシュの見た日本」九州フランス文学会発表、のち同学会・フランス文学論集7号所収。

同46年 岩波映画「法隆寺献納御物」詞作担当。